

平成 20 年 8 月 26 日

各位

『F F G調査月報9月号』発行について

8月26日(火)、経済調査誌『F F G調査月報9月号』を発行いたしましたのでお知らせいたします。

F F G調査月報はF F G三行の営業店からお客様へ配布を行うとともに、全営業店の窓口にも配置しております。

F F G調査月報9月号の主な掲載内容

■ **経済動向** (九州、福岡県、長崎県、熊本県)

- ・各種統計データに基づき九州、福岡県、長崎県、熊本県の経済動向を纏めています。

■ **産業調査** 「海外生産拠点化の潮流と九州企業のアジアビジネス」

結論

九州の企業が更なる経済的利益を獲得するためには、「アジア」との距離的優位性に甘んじることなく、変化の激しい「アジア」のニーズ(ビジネスチャンス)を適切にキャッチするといった地道な企業努力が必要である

- ・「アジア」への生産拠点のシフトは、我が国との経済活動を遮断した“現地化”ではなく、調達や販売、更には人的交流といった意味で、広く我が国に依存した“現地化”である。
- ・「アジア」への生産拠点化の動きは、リードタイムや物流コストの面から見ると、国内と比較して大きな差はないものの、豊富な労働力を利用した生産コストの面から見てみると、価格競争力の点で経済合理性が見出せる「アジア」が生産拠点として選ばれる一つの理由と思われる。
- ・九州には、自動車産業や半導体関連産業をはじめとした工業製品や農産物など我が国を代表する産業も多く存在することから、これらの産業が「アジア」のニーズを適切に捉えることで、更なるビジネスチャンスの可能性が期待できる。

■ **地域経済調査** 「九州の工場立地動向と企業立地の取り組み」

- ・九州経済産業局が発表した「九州の工場立地動向調査」を基に、九州全体の工場立地動向を整理し、福岡県、熊本県、長崎県における企業立地の取り組みをレポートしています。

■ トピックス 「農業振興を通じた地域活性化～全国棚田サミット開催へ～」

- ・日本における農業の現状を概観した上で、農業振興を通じた地域活性化を目的とし開催される「全国棚田サミット」について紹介しています。

■ トップに聞く

- ・次の3人の企業のトップに「私の経営理念」と「当社のセールスポイント」についてお聞きしています。

山崎 一正氏 (株式会社 ヤマサキ 代表取締役社長)

島田 俊郎氏 (株式会社 雇用促進事業会 代表取締役)

伊藤 正浩氏 (キリンフーズ 株式会社 代表取締役)

■ 海外レポート

「急速な発展を見せるベトナムの問題点」

- ・急速な経済成長を続けるベトナムで発生した経済関連の問題から「株式市場の混乱」、「通貨ベトナムドンとインフレ問題」についてレポートしています。

■ フラッシュ

「上海商談会」

- ・F F G及び全国地銀が中国上海市において合同開催した「全国地銀合同商談会」、「第2回日本食品展示商談会 in 上海」の様相についてレポートしています。

■ 海外進出最前線(上海編)

- ・海外進出を果たし、成長を続けている企業を紹介しています。
正晃 株式会社 (現地法人名/上海正晃商貿有限工事公司)

■ F F Gニュース

「九州経済調査協会との共同研究～自動車産業～」

- ・福岡銀行が、創業130周年記念事業の一環として取り組んでいる「九州経済調査協会との共同研究事業」について紹介しています。

以上

連絡先

(株)F F Gビジネスコンサルティング 企画調査部

担当：島浦、横尾

電話：092-723-2576 FAX：092-761-8846